

平成26年度うるま市消防派遣型 救急ワークステーション検証会

うるま市消防本部では、平成27年5月19日（火）に沖縄県立中部病院において、平成26年度うるま市消防派遣型救急ワークステーションの検証会を実施しました。

この検証会は、沖縄県立中部病院とうるま市消防本部において締結した覚書に基づき、昨年度の運用の締めくくりとしておこなわれ、今年度の運用に反映させることを目的としています。



新垣警防課長



上原院長

検証会では、うるま市消防本部の新垣警防課長の開式のことばで始まり、県立中部病院の上原院長より激励のあいさつを頂きました。

その後、事務局の警防課救急係長より実績報告及び両機関から症例発表が行われ、活発な意見交換が行われました。

最後に県立中部病院救命救急センターの高良部長より閉会のことばを頂き、今年度の運用に向けて、平成26年度の運用を締めくくることができました。

うるま市消防派遣型救急ワークステーションとは？

うるま市消防本部から高規格救急自動車1台と救急隊員3名（救急救命士含む）を県立中部病院救命救急センターへ派遣し、救急隊員が病院実習を行いながら出動要請があれば、可能な限り医師を同乗させ病院から救急現場へ出動するシステムです。



警防課救急係長より実績報告



消防側より症例発表



病院側より症例発表



検証会風景

出動実績

昨年度は、平成26年6月2日～平成27年3月27日の間、197日の運用を実施し、延べ591人の職員（救急救命士400人、救急隊員191人）が派遣されました。

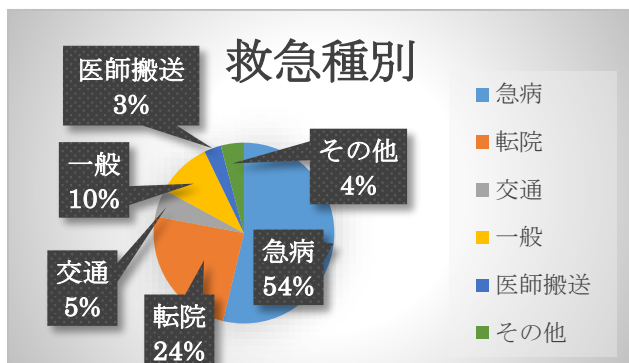
期間中の総出動件数は363件あり、急病が195件と最も多く、次に転院搬送の88件になりました。

医療機関への搬送人員は、332人（不搬送25人）あり、県立中部病院への搬送が260人と最も多く、次に中頭病院へ46人の搬送となりました。

運用時における1日の平均出動件数は1.8件となり、1日の最高出動件数は7件で、1件も出動の無い日が、20日ありました。

医師同乗については、医師が同乗できる対象件数（運用時間外及び転院搬送除く）275件中、同乗件数が264件あり、88.8%と高い同乗率がありました。

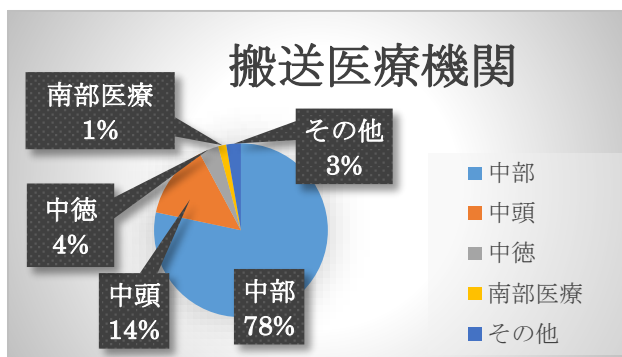
救急出動種別



出動件数 363 件中、急病 195 件、転院 88 件、一般負傷 36 件、交通事故 18 件、医師搬送 11 件、その他 15 件になる。

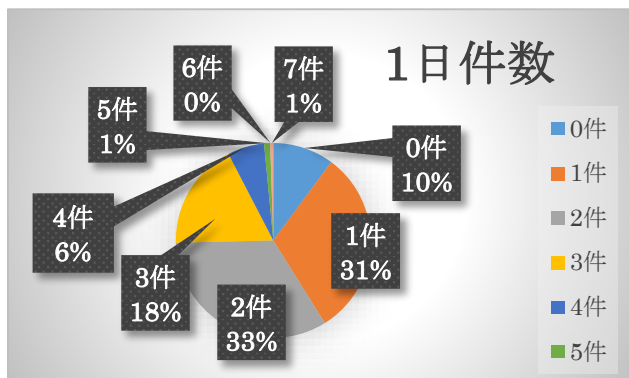
急病については、26 件増 (15% 増)、転院については、24 件減 (21% 減) があった。

搬送先医療機関



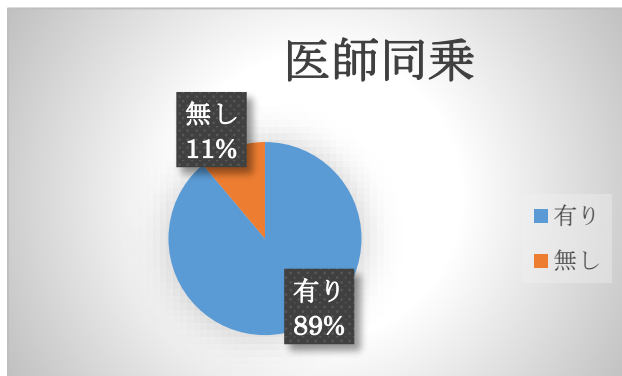
搬送人員 332 人中、中部病院 260 人、中頭病院 46 人、中部徳洲会 12 人、南部医療 5 人、琉大病院 2 人、沖赤十字 4 人、那覇市立 3 人の搬送となる。

一日の出動件数



0 件出動 (20 日)
 1 件出動 (61 日)
 2 件出動 (66 日)
 3 件出動 (35 日)
 4 件出動 (12 日)
 5 件出動 (2 日)
 6 件出動 (0 日)
 7 件出動 (1 日)

医師同乗有無



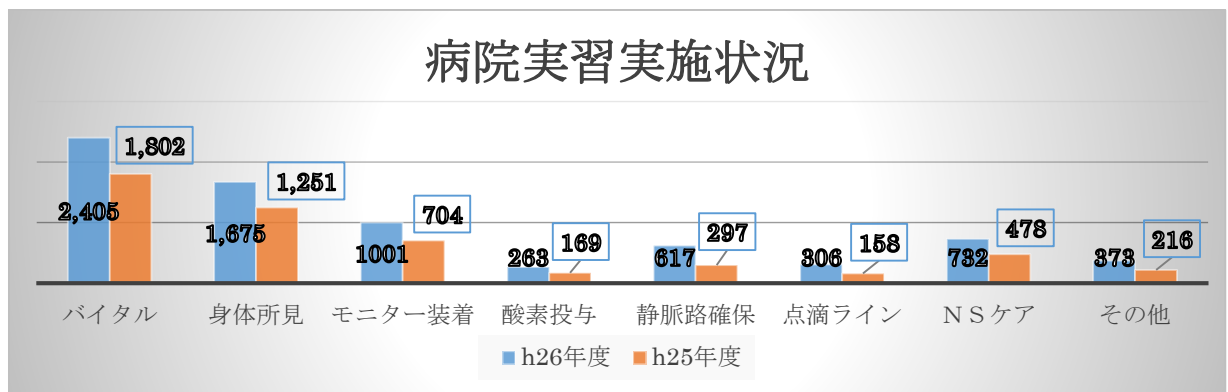
総出動件数 363 件の内、医師の同乗件数が 264 件あり、対象出動件数【転院搬送及び就業前後除く】297 件に対し 264 件【88.8%】の同乗率があった。

また、医師の同乗無しが、99 件 (【転院搬送 39 件、就業前後 27 件含む) があった。

病院実習実績

病院実習については、延べ 591 人が派遣され、バイタルサインの観察 2,405 回、身体所見の観察 1,675 回、モニター装着 1,001 回、酸素投与 263 回、静脈路確保 617 回、点滴ラインの準備 306 回、NS ケア 732 回、その他 373 回が実施され、すべてにおいて前年度を上回った。

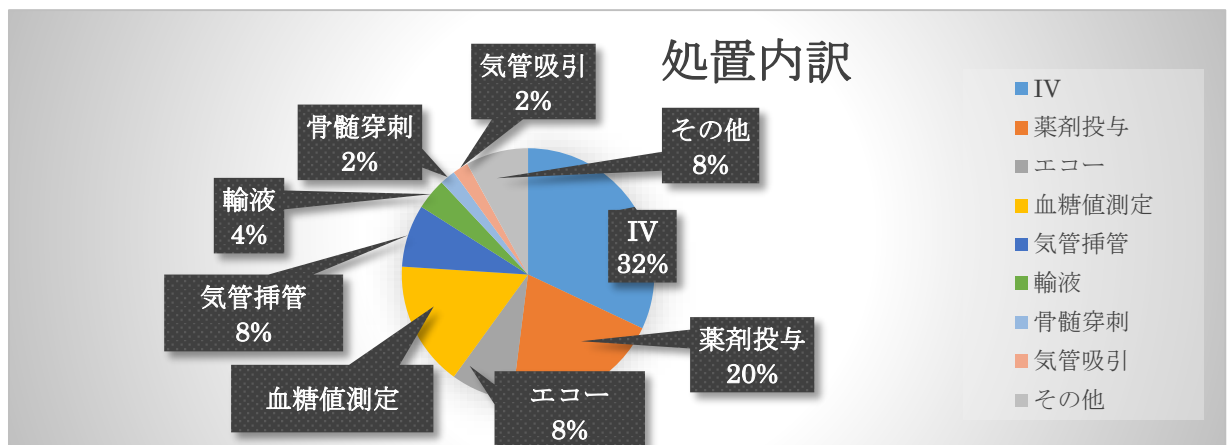
病院実習実施状況



医師処置内容

医師による医療処置は 50 件あり、内訳は、静脈路確保 16 件、薬剤投与 10 件、血糖値測定 8 件、エコー 4 件、気管挿管 4 件、輸液 2 件、骨髄穿刺 1、気管吸引 1 件、その他 4 件になる。

医師処置内容





おわりに

うるま市消防本部では、これからも沖縄県立中部病院と連携を密にしながら救急ワークステーションにおいて、相互の救急医療体制の強化並びにメディカルコントロール体制の構築をおこない、病院前救護体制の充実強化を図ると共に、救急隊員の実施する救命処置の質の向上を図るために、更なる救急隊員教育の充実強化に努めてまいります。